

中国法書選
43

唐
懷素

自叙帖

中国法書選
43

自叙帖

唐 懷素

二玄社

中国法書選 43

自叙帖 唐 懷素

1989年5月10日 初版第1刷発行

発行者 渡邊隆男

発行所 株式会社二玄社

東京都千代田区神田神保町2-42-1 〒101

電話 03(263)6051～4

振替 東京4-28782

原本 中華民国 国立故宮博物院蔵

解説 藤原有仁

釈文 藤原有仁

表紙 ダイニック株式会社

印刷 株式会社東京印書館

製本 牧製本印刷株式会社

装幀 加藤光太郎デザイン事務所

ISBN 4-544-00543-4 05431

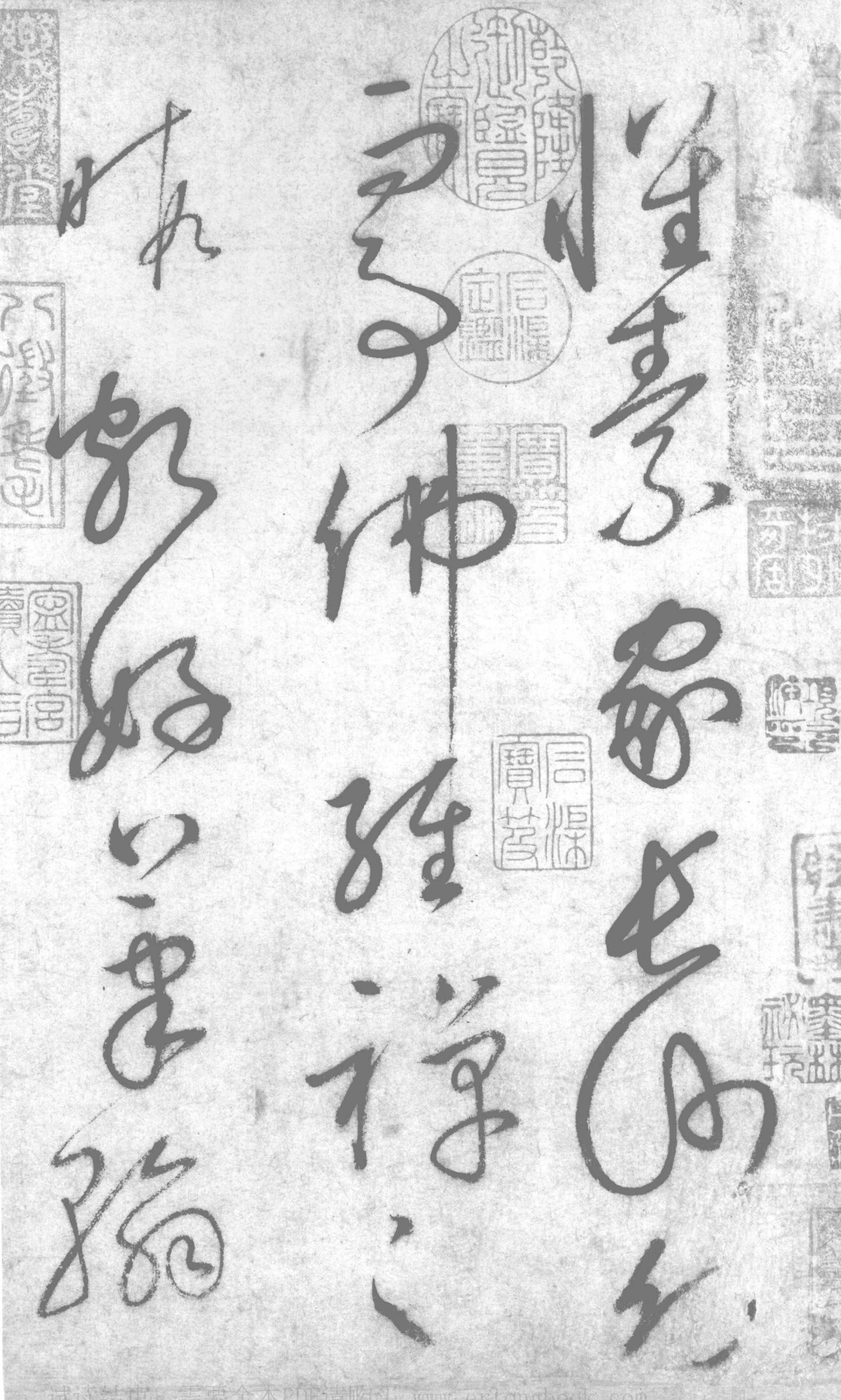
無断転載を禁ず

中国法書選
43

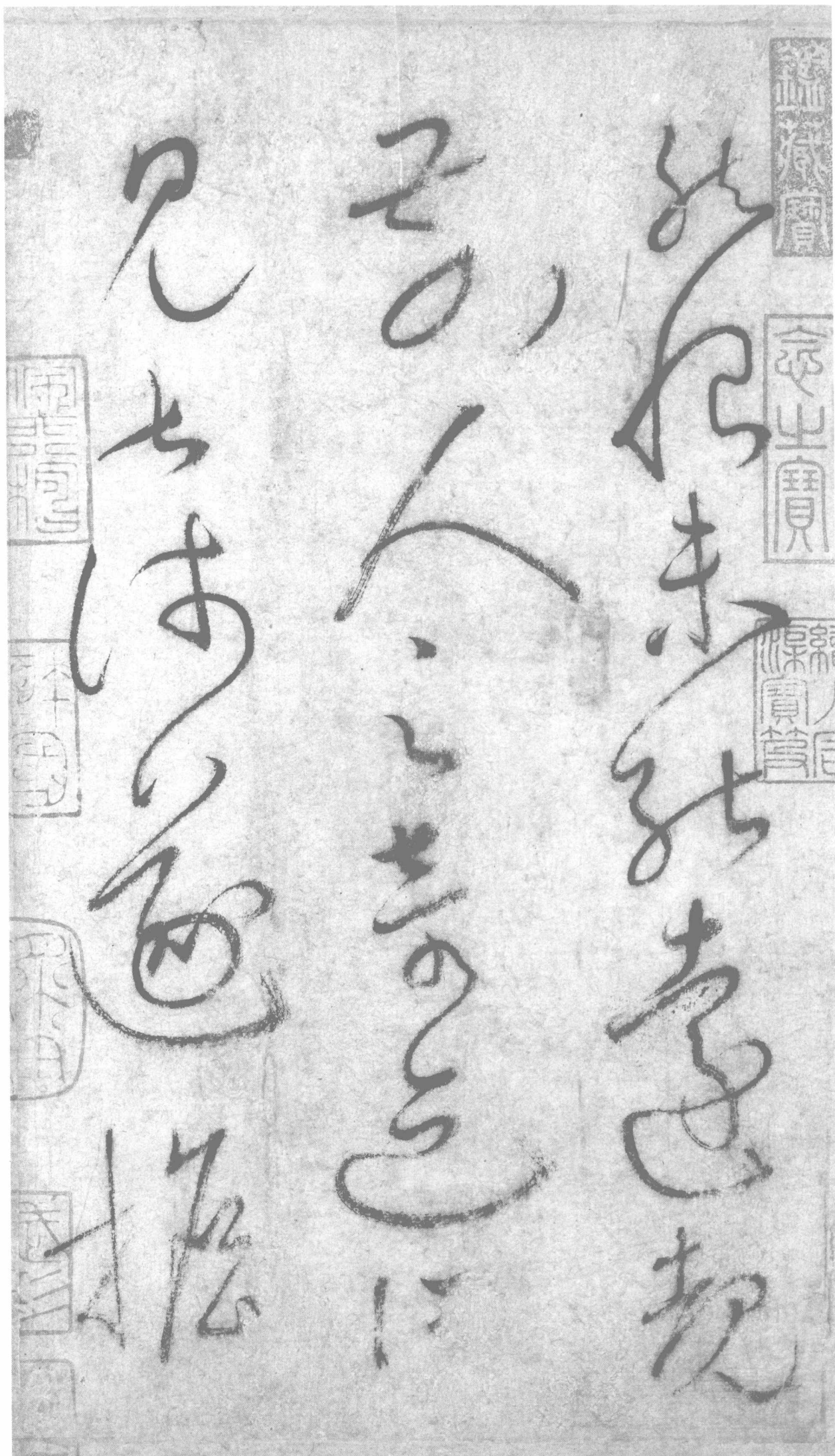
自叙帖

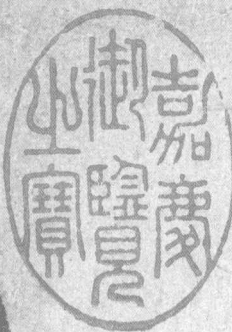
唐 懷素

二玄社



懷素家長沙。幼而事佛。經禪之暇。頗好筆翰。
懷素長沙に家す。幼にして仏に事え、經禪の暇、頗る筆翰を好む。





友杖錫西遊上

謁見當代名公

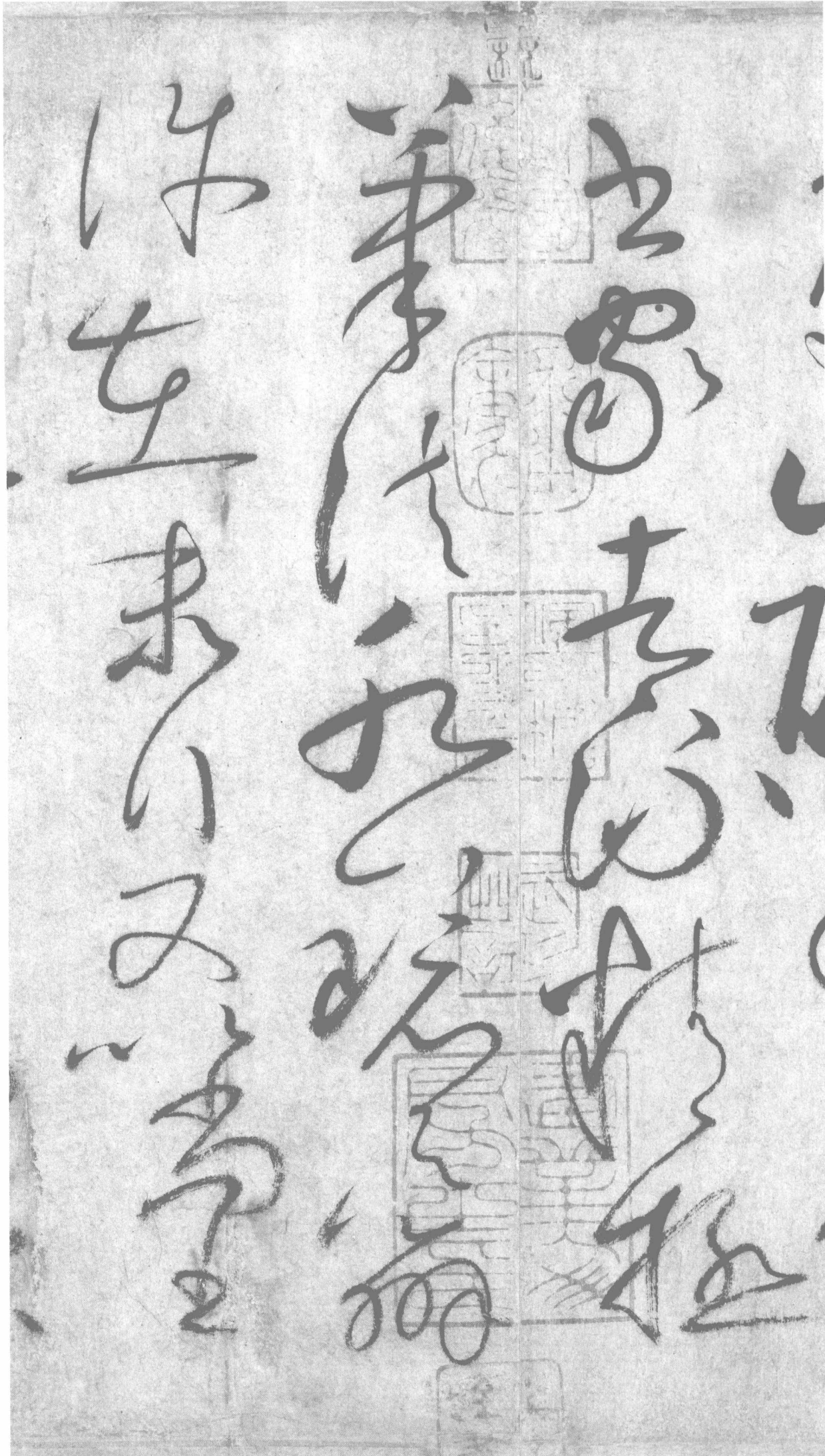
錯綜其事遺

笈杖錫。西遊上國。謁見當代名公。錯綜其事。遺
錫を杖つき、西のかた上國に遊び、当代の名公に謁見し、其の事を錯綜するに、

[illegible]

乃主子
 去本
 為
 下
 落
 部

絹素。多所塵點。士大夫不以爲恠焉。顏刑部
 絹素、多く塵點する所なるも、士大夫は以て恠と爲さず。顏刑部は



書家者流。精極筆法。水鏡之辨（喻）。許在末行。又以尙書
 書家者流、筆法に精極す。水鏡の辨、末行に在るを許す。又た

司勳郎虛象。小宗伯張正言。曾爲歌詩。故敘之曰。
 (尚書)司勳郎虛象、小宗伯張正言、曾て歌詩を爲るを(以て)、故に之に叙して曰く、
 司勳郎虛象。小宗伯張正言。曾爲歌詩。故敘之曰。
 司勳郎虛象。小宗伯張正言。曾爲歌詩。故敘之曰。
 司勳郎虛象。小宗伯張正言。曾爲歌詩。故敘之曰。

開士懷素。僧中之英。氣槩通疎。性靈豁暢。
 疎性。生於。氣。通。性。靈。豁。暢。

開士懷素。僧中之英。氣槩通疎。性靈豁暢。
 開士懷素は、僧中の英なり。氣槩通疎、性靈豁暢なり、

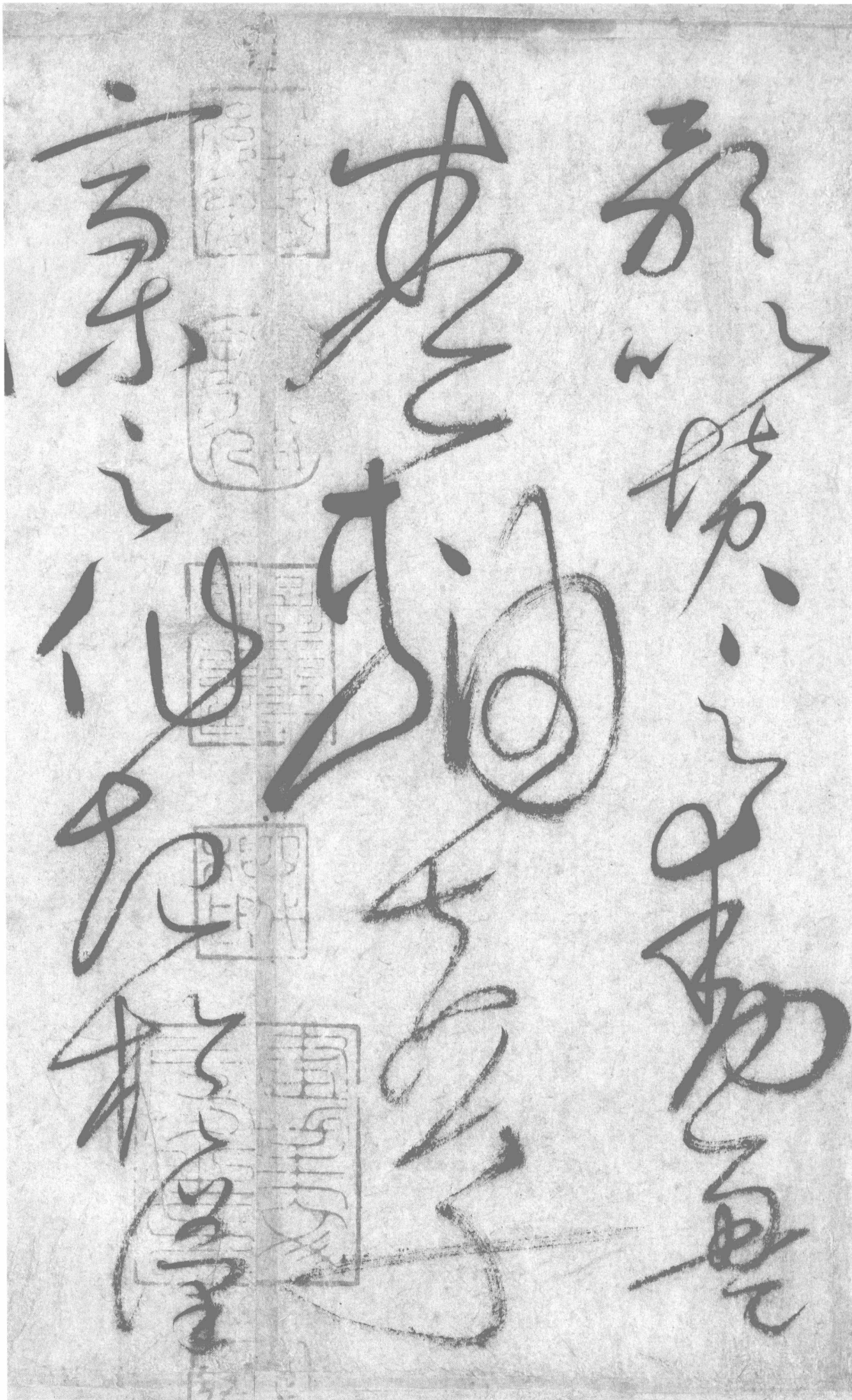
精
 心
 草
 聖
 積
 有
 歲
 時
 江
 嶺
 之
 間
 其
 名
 大
 著
 故
 吏
 心
 を
 草
 聖
 に
 精
 しく
 し、
 積
 む
 こ
 と
 歲
 時
 有
 り。
 江
 嶺
 の
 間、
 其
 の
 名
 大
 い
 に
 著
 わ
 る。
 故
 の

精心草聖。積有歲時。江嶺之間。其名大著。故吏
 心を草聖に精しくし、積むこと歲時有り。江嶺の間、其の名大いに著わる。故の

部侍郎韋公陟
其筆力
勗以有成
今禮部

部侍郎韋公陟。觀其筆力。勗以有成。今禮部
〔吏〕部侍郎韋公陟、其の筆力を睹て、勗ますに有成を以てす。今の

侍郎張公謂。賞其不羈。引以遊處。兼好事者同作。
 〔礼部〕侍郎張公謂。其の不羈を賞で、引いて以て遊處す。兼ねて好事の者と共に〔歌を〕作り、



歌。以贊之。動盈卷軸。夫草臺之作。起於漢
 以て之を賛す。動もすれば卷軸に盈てり。夫れ草稿の作は、漢(代)に起こり、

代。杜度崔瑗。始以妙聞。迨乎伯英。
杜度・崔瑗、始めて妙を以て聞こゆ。伯英に追ひて、

尤擅其美。羲獻茲（以）降。虞陸相承。口訣手授。
尤も其の美を擅にす。羲獻茲降、虞陸相承、口訣手授して、

代杜度崔瑗

始以妙聞